

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000661		
法人名	有限会社 あかつき		
事業所名	グループホーム あかつき		
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南18073-1		
自己評価作成日	2018年6月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	平成30年7月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

従業者は、要介護者であって認知症の状態にあるものについて共同生活住居という家庭的な環境の中で心身の状況に合わせた介護を行う。
 又、その他機能訓練を行うことにより、利用者の能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な援助を提供する。
 事業の実施にあたっては、関係市町村、地域の保健・医療福祉サービスとの綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは田畑が広がるのどかな環境の中にあり、庭には芝生が植えられ、手入れされた草花を楽しむことができる。日課である散歩コースは、季節を感じながら豊かな自然を満喫できる。散歩の道中、近隣の住民との語りもあり地域交流を行っている。毎週金曜日は希望食の日と定め、入居者の希望に沿ったメニューを提供している。入浴は毎日入浴を基本とし、入居者の状態に応じて臨機応変に対応している。職員は入居者に対して常日頃、尊厳をもった対応を行っており、排泄介助においては職員の優しい声かけと、工夫や努力により紙パンツから布パンツへ移行できた入居者が増えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、その他フロアに掲示しており職員や利用者、その家族にわかるようにしている。	理念を玄関やフロアの見える場所に掲示し、管理者と職員は共有できるようにしている。入居者・家族の目に触れることで、ケアへの実践に繋がるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事ごとには、職員と利用者も含め積極的に参加させてもらっている。地域の民生委員、班長、長寿会の会長には運営推進会議にも出席してもらっている。	町の方針で地区分けがなくなり、町全体で行う行事には参加が難しくなっている。近隣の人達が寄り合っていてできる班に加入し、会合に参加するなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合の場などで認知症について、簡単ではあるが相談、アドバイスなどを行っている。業務時間以外でも相談を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催しており、会議で出た意見や要望などは積極的に日々の支援に取り入れ、成果を報告している。	運営推進会議の参加メンバーがほぼ固定されている。家族の参加はなく、地域に関わる民生委員等も時間の調整がつかないことで、参加できないことが多い。	開催日時のあり方を再検討し、家族や民生委員等の参加のもと活発な意見交換を行うことで、更なるサービス向上に繋がることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、必ず出席してもらい現状報告を行っている。	行政の担当者と電話やメールで連絡を取り、情報を得るよう取り組んでいる。運営推進会議では現状報告を行い、意見や助言をもらうなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について社内研修を行い、マニュアルを作成して全職員に周知して、身体拘束に対する意識付けをしている。日中、玄関は常に開錠している。	職員研修で身体拘束の内容とその弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は開錠されており、入居者は見守りのなか自由に入出入りしている。言葉遣いや言葉かけも意識し、言葉による拘束をしないケアにも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニットリーダーが高齢者虐待防止研修を受講して、社内研修を行っている。毎月、職員全員が高齢者虐待防止のための気づきチェックリストを付け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時は管理者と介護支援専門員が対応する。他の職員に対しては、制度について理解が深まるよう説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族の強力の大切さも含め、要介護高齢者が抱えるリスクや重度化した時の対応等を詳しく説明して同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に誰でも自由に匿名可で意見を記載できるノートを設けている。なんでも相談できる信頼関係作りに努めている。意見や要望については話し合いの場を設け、要望や意見がでた場合には、可能な限り反映の努力をしている。	面会や受診付き添いの来訪時に、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに心がけている。相談や要望については十分な説明を行い、可能な限り対応し反映の努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なかなか現場で直接聞くことができていないので、職員会議等で出してもらったものを吸い上げ又、下していく形にしています。	月1回の職員会議で、行事に関する意見や勤務分担についての意見を聴く機会を設けている。職員より出されたウォーターサーバーの相談も、実際に設置し意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働いてほしいので、研修への参加や資格取得に向けて職員みんなで協力している。又、資金面や手当面等、整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り研修への参加ができるよう、勤務時間の変更を行っている。研修に参加した職員は持ち帰ったことをホームで再研修し共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町外のグループホームの研修会や講習会に参加している。互いに勉強の場と交流の場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームの見学に来て頂いたり、自宅や入院されていた場合には医療機関に訪問して事前に面談をおこない、信頼関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方に、在宅生活中に大変だった事や困っていた事、不安に思っていたことを聞いて、ホーム生活に対する意向を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センター等に相談をして、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみを一緒にしたり、地域の事、昔の事を教えて頂いたりしながら、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出が困難な方などは、ホームで家族だけで食事ができたり団欒ができるように配慮をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、本人の希望に応じて車を利用して外出を支援している。面会はいつでもできるようにしている。	地域の班が行う花見(バーベキュー)に参加している。馴染みの理髪店・美容室を利用し、墓参りなど本人の希望があれば外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方との座席の配慮をしており、利用者間のトラブルを未然に防ぐ努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に行かれた方は、必要に応じて情報提供を行っている。医療機関に入院された方など、受診時などに面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に希望、意向を確認している。また、カンファレンス時などに担当スタッフにも意見をj確認している。	日々の関わりの中で入居者の言葉や表情などから、思いや意向を把握できるように努めている。また家族から得た意見や情報をもとに本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の世間話をする中で情報を得たり、家族や知人の面会があった時などに、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、生活記録に記載して、スタッフ間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に聞いたり、ご家族が面会に来られて際などに意見や要望を聞いている。それぞれの意見や要望やアイデアを取り入れて介護計画を作成している。	家族の面会に合わせて担当者会議を開催し、本人、家族の意向を確認している。参加者全員で意見を出し合い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に日常の様子やケアの実施状況を記入している。職員間では常に情報共有をして、スタッフの意見のもとに介護計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせて、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域の方、消防関係者、特に訪問美容師の方が来られて際には、現在の社会情勢や世間話などを楽しまれ、交流をする機会がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に受診を依頼している方には、受診連絡帳を活用して生活状況や健康状態を詳しく記載して、適切な医療が受けられるように努めている。職員が同行することもある。	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診し、安心した医療を受けている。家族の協力のもと受診を行っているが、生活状況や体調は情報提供書を用いて医療関係者に報告している。職員が受診介助することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職が不在の為、協働できない。早急に雇用できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、速やかに情報提供書を作成して情報提供して、医療機関との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を聞き取り、当事業所でできる事、出来ないことを事前にしっかりと説明している。早い段階で、終末期対応可能な施設の説明と、事前に申し込みができる事も説明している。	利用開始時に、重度化した場合や終末期のあり方について十分に説明している。事業所でできること、できないことをしっかりと説明し本人や家族の意向を確認している。また医療機関と連携を図り、家族が適切な判断ができるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法、応急手当について系列の施設にて合同で研修会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回、火災と地震を想定した避難訓練を実施しており、安全に避難誘導できる方法を身に付けている。今後は、地域との協力体制を築いていきたい。	災害による避難訓練を年3回実施している。ヘルメットや備蓄品を備えているが、地域住民や地元消防団の参加が見られず、連絡体制の確立もできていない。	運営推進会議のメンバーである長寿会会長や民生委員の協力をもらい、地元消防団や近隣の住民と繋がりを持ち、避難訓練に参加協力を得ることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けをするように心掛け、本人の自己決定を支援、尊重する対応をしている。	職員は声かけに尊敬の念を持って対応し、信頼関係を築く努力をしている。入居者が自己決定できるような声かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、話しやすい雰囲気づくりに努め表情や反応などでも本人の思いに気付くよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に対しては尊重して、自己決定優先で行う。行動される場合はさり気ない見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装に留意して、その人らしい身だしなみに心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時は利用者と同じテーブルにつき、世間話などを交え食事を楽しんでいる。必要に応じて、軽介助、全介助等行っている。	毎週金曜日は希望食の日と定め、入居者の希望に沿ったメニューになっている。皮むきや下ごしらえ、盛り付けなど入居者もできる範囲で職員と一緒にしている。菜園でミニトマトやゴーヤを栽培している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は毎食時、10時15時その他、希望時にも提供している。自己摂取が難しい方は介助を行っている。食事もその方に合わせた食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、必ず職員が付き添い実施している。支援が必要な方は状態に応じた支援をしている。自立されている方も口腔トラブルがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態に応じた支援をしている。定時声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。定時誘導の際に排泄がなかった場合、再度時間を置き誘導している。	排泄チェック表を利用し声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。自立した排泄ができるように工夫され、布パンツへ移行できてる入居者も増えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を一日1500mlを目標、目安にして提供している。その他、レクリエーションの時に、運動や体操を取り入れている。便秘気味の方には、腹部マッサージをおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。個人差はあるが本人希望時に入浴をおこなう。入浴ができない場合には清拭にて清潔を確保している。	基本は毎日入浴ができる体制にあるが、入居者の体調や気分に応じて臨機応変に対応している。入居者に無理強いすること無く、時間をずらしたり、言葉かけの工夫を行い本人の意向を聞きながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団クリーナーを使用して、定期的に寝具クリーニングを実施している。昼夜逆転が起らないように運動や精神安定を取り入れ、良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず処方箋を確認している。利用者の名前と日付の声出し確認して、内服して頂いている。症状に変化があれば医療機関に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴等を把握して、できる事、生活が楽しめるように一人ひとり支援している。外出等を積極的に取り入れて、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿い、屋外の散歩を多く取り入れている。季節感が感じられるように、町外にも出掛け、生活が楽しくなるように努めている。また、地域で開催される花見などのイベントにも参加している。	天気の良い日はホーム周辺の散歩を楽しんでいる。帰宅願望のある入居者を月1回程度、自宅まで車で送迎している。地域の班が主催する花見に出かけたり、希望があれば墓参りの外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ホームで金銭管理している方はいない。家族より要望があれば、小遣い程度の少額の金銭管理をおこなう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は本人が電話したり、手を行う。紙を出す方はいないが、要望があれば電話を取り次いだり、代筆の支援を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除で清潔を保っている。フロアの壁に利用者の作品や季節のものを飾った空間づくりをしている。玄関、庭には、季節の花がいつも咲いている。	日当たりが良く明るいフロアにはソファが置いてあり、入居者はお気に入りの場所で過ごしている。壁には入居者の創作品や習字が飾られていて季節感がある。掃除も行き届いていて清潔が保たれ、居心地良く過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席やソファ席の配置を、気の合った利用者同士で過ごせるよう工夫している。一人で居室でリラックスする時間も大事にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや家具寝具などは自宅で使っていたものを配置して、レクリエーションなどで制作した作品などを飾りつけ、居心地よく過ごせるよう支援している。	家族の写真や思い出の品、机や椅子など、本人が慣れ親しんだ品々が持ち込まれ、日々の生活が居心地良く過ごせるよう工夫してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様ができる事は、見守り声掛けをして必要時には誘導を取り入れ、利用者の気持ちを尊重して自立した生活を目指している。		